

ワークショップ

臨床工学技士養成課程における高気圧酸素治療教育の課題

—講義および臨床実習後のアンケートから—

濱田倫朗 坂上正道 管田 壘 堺 美郎
荒木康幸

済生会熊本病院 臨床工学部門

【はじめに】

臨床工学技士養成にあたり、臨床工学技士養成学校養成所指定規則では実習施設にHBOT装置を有することになっている¹⁾が、年々設置施設が減少し²⁾、条件を満たさない実習になる場合がある。またHBOTの講義も呼吸療法装置学の1分野としての位置づけで、学生の関心が高い項目ではないと思われる。当院では4校の専門学校・大学から学生の臨床実習を受け入れ、うち1校では非常勤講師としてHBOTの講義を行っている。今回、HBOTの講義と臨床実習後のアンケートで、学生の意識変化を調査して課題を探り、対応策を検討したので報告する。

【対象と方法】

アンケートは、2013年専門学校2年生43名に対し16時間のHBOT講義後にその内容に関すること、そして2014年3年生37名の臨床実習終了時に実習全般について実施した。これをもとにHBOTにおける臨床実習の課題を明らかにし、実習時間と実習内容の変更を検討した。また、2015年の講義では内容にも工夫を加えた。

【結果】

講義後62.8%の学生がHBOTに「興味がある」と答えていたが、臨床実習後は27.0%に減少し、働きたい分野でHBOTを選んだ学生は18.9%、働きたくないと答えた学生は18.9%であった(図1)。対応策として、実習時間を他の実習項目と調整することで、実習日数を1日から3日間に増やし、さらに実習内容を見学中心の実習から体験型実習に変更した。講義では、圧力変化の観察や圧縮熱・膨張熱など身近に体験できる話題を提供することに努め、2015年の講義後の「興味がある」は79.0%に上昇した(図2)。

【まとめ】

これまで当院でのHBOT臨床実習は1日で、見学と安全教育に重点を置いていたため理解が浅く、興味よりも恐怖を覚えて帰る学生が多いと思われた。実習時間の確保と装置での閉鎖空間体験やシミュレーションとしての加圧・減圧操作など、実習内容の充実により学生のHBOTに対する就業意欲改善につながることを期待したい。また講義では、日常生活で経験できる事象と関連づけて説明することで興味がわきHBOTへの関心が高まると考えられた。

参考文献

- 1) 厚生労働省: 臨床工学技士学校養成所指定規則(昭和63年3月28日文部省・厚生省令第2号)
- 2) 高気圧酸素治療安全協会: 全国都道府県装置設置施設数及び台数集計. 安全協会ニュース第45号 2015; 24: 56.

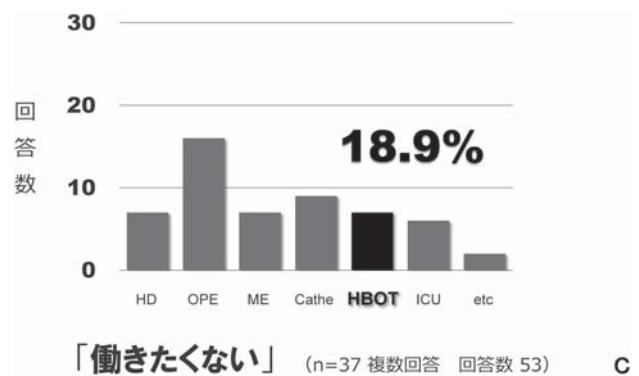
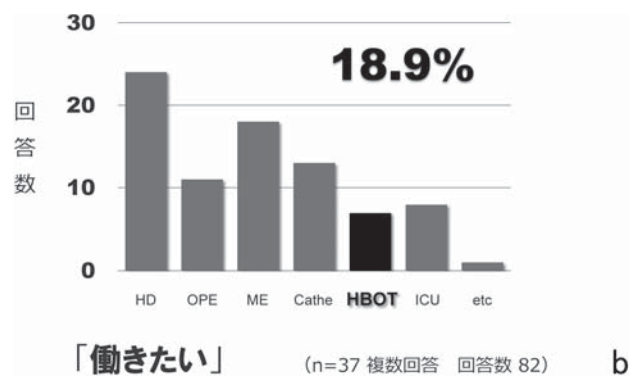
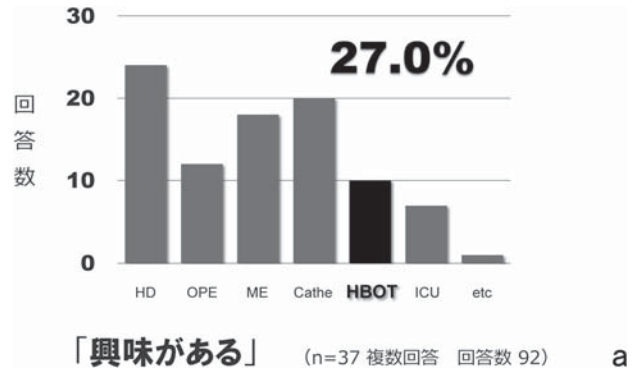


図1 臨床実習後のアンケート結果

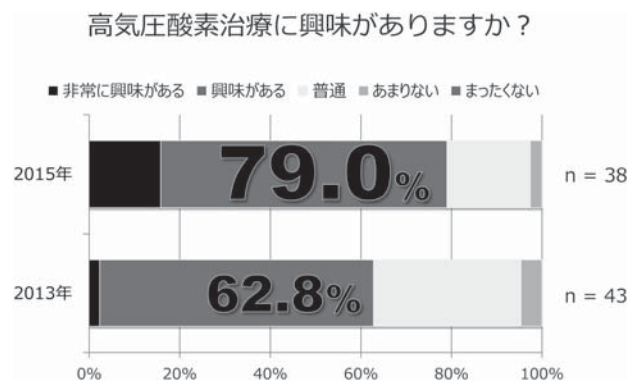


図2 講義後のアンケート結果